

件名	「公共施設のあり方について」	
現状	施設面	<p>高度経済成長期の人口増にあわせて多数の公共施設が建設されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市が保有する公共施設の総延床面積は 52.8 万㎡ ・そのうち、学校教育施設は 24.7 万㎡ <p>1965 年（昭和 40 年）から 1985 年（昭和 60 年）にかけて建設された、築 30 年以上が経過した施設面積が半分以上を占めています。</p> <p>今後更なる老朽化による修繕・大規模改修の増加が見込まれます。</p>
	財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢人口減少による歳入減少 ・高齢化の進行による社会保障関係経費の増加
問題	<p>試算によると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後 50 年間で必要な保全費用：年平均 36 億 5 千万円 ・投資的経費のうち公共施設に係る費用と維持補修費（捻出可能な費用）：年平均 14 億 8 千万円 <p>このままの状況が続くという条件で単純計算すると、金額ベースで約 40%しか保全費用が賄えない状況にあります。</p>	
観点	<p>行政運営の基本原則である最小の経費で最大の効果を上げ、こうした公共施設が抱える課題に対応していくためには、公共施設の維持管理や運営面においても、施設の配置や管理運営の形態等を適切に見直し、行政経営（マネジメント）を実践することが必要。</p>	
そこで、「公共施設マネジメント構想」として、下記の目標を定めました。		
目標	<p>「施設を良好な状態で維持すること」</p> <p>「施設の最適化を実現し、維持管理コストの削減を図ること。」</p> <p>「施設の利用満足度を向上させること」</p>	
<p>さらに、公共施設マネジメント構想の基本計画として、個別施設の方向性を定めた『岸和田市公共施設最適化計画』を策定しました。</p>		
<p>岸和田市公共施設最適化計画では、</p> <p>文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を踏まえ、児童数・生徒の推移を勘案しながら適正な総量管理を行うとされています。</p>		

○岸和田市公共施設最適化計画（概要版）から抜粋

	将来の方向性
小学校	将来の児童数の推移により、今後は新たに余裕教室ができると見込まれます。幼小連携や小中一貫教育等による教育環境の充実を図りますが、同時に、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を踏まえ、小学校の適正規模実現を目指します。なお、余裕教室については、今後の需要を踏まえて活用策を検討していきます。
中学校	将来の生徒数の推移により、今後は新たに余裕教室ができると見込まれます。小中一貫教育等による教育環境の充実を図りますが、同時に、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を踏まえ、中学校の適正規模実現を目指します。なお、余裕教室については、今後の需要を踏まえて活用策を検討していきます。